

清宮政宏

熊の湯に到着したのは、午前9時少し前だった。

前夜、上野駅を夜行電車で発ち、長野、湯田中と小刻みに乗換え、うまく疲れぬまま、熊の湯へと着いた。

夜明けごろ、ちょうど長野電鉄に乗っていたころには降っていた雪も、熊の湯に着く頃にはやみ、青い空が覗くようになっていた。

どうせ志賀まで行くのだから、どこかでゆっくりと一泊すればいい…という気持ちがあり、幕営道具や食料は充分持つて来ていたものの、その反面、できれば今日中に草津へ滑りたい、単独行なのだから…とも思っていた。

熊の湯から横手山のゲレンデへと入り、リフトを乗り継いで、横手山山頂へとあがる。熊の湯では穏やかだった天候も、横手山山頂では風が強く、草津側は、薄くガスがかかって時折妙義山が薄く見える程度だった。

熊の湯で買ったリフト回数券をつかい、渋峠のゲレンデで滑りながら、天候待ちをするにした。ガスがかかり、よく見えない景色も、時々は、草津温泉のホテル街が小さく、そしてかすかにみることができた。距離にして8KMくらいはあるのだろうか。昼過ぎに回数券を使いきり、別のパーティが山田峠経由で万座方面へツアーヘ出るのをみてから出発した。

雪がないだろうということで、だれも一緒にきてはくれなかったが、渋峠から芳ヶ平までは、ラッセルとまではいかなかったものの、思っていた以上に雪があり、スキー板が雪の中にもぐってしまったり、斜度があまりないので、なかなか前に進まなかった。

ようやく斜度がでてきてスキーが滑り始めたところあたりからは、ガスの中をぬけ、真正面には妙義山、右側には草津白根山を眺めながらの滑降となった。渋峠～芳ヶ平間は、いたるところに黄色の標識があり、それを忠実にたどって行きさえすれば、迷いそうなところはなかった。

芳ヶ平の小屋は、ガイドブックには通年営業とでていたものの、誰もいなく、小屋にはしっかりと鍵がかけられ、入ることもできなかった。小屋の陰に隠れて風を除けながら、昼食をとった。

時期によっては、或るいは日によっては、山スキーヤー、ゲレンデスキーヤーが数多く通るであろうこのコースも、出会う人もいないどころか、シブールさえなく、そのほかのもの全てをうち消してしまうような強い風の音を聞きながら、雪煙の舞う草津白根や、特異なかたちをした妙義山を見ていると、小屋がなければ、まるで自分が異次元の世界に放り込まれたような錯覚にさえおそれたであろうように思えた。

芳ヶ平から草津へと下る沢の入口は、風に雪がとばされて、地面が露出していた。しかし、スキー板をはずす程のものでもなかった。

芳ヶ平からは、草津の温泉街を、遠くではあるが、真正面にみながらの滑りになる。滑るにつれて、高度が低くなっていくこともあり、雪が重たく感じられるようになってくる。スキーが回しにくくなってきたな、とは思いながら、滑りなれている上越の雪だと思うと、少々安堵感さえ感じられた。

滝見台を過ぎたあたりからは、右手の沢の向こう側に天狗山ゲレンデを見ながらの滑りになる。ゲレンデで流されている音楽を聞きながら、重たくなって、どんどん滑らなくなつてゆく雪を手でこぎながら進み、腕が疲れてしまった頃、音楽の森ゲレンデの横へと到着した。

コースタイム(12/29)

渋峠発12:40～芳ヶ平着14:10/発14:40～滝見台15:40～草津(音楽の森)着16:25